

「コロナ禍」での文化祭

松前町教育委員会 社会教育課

1 はじめに

「第45回まさき文化祭」を10月22～25日に松前総合文化センターで開催した。

例年、まさき文化祭については、芸能発表や作品展示をはじめ、婦人会等のバザーや庁舎前駐車場でのフリーマーケットなど、にぎやかに開催してきた。

しかし、コロナ禍の今年度は、感染防止対策を徹底して開催する必要があった。

2 第45回まさき文化祭の概要

(1) 作品展示

例年、町文化協会会員を中心とした出品者の作品が、文化センター会場内を埋め尽くすが、今回は文化協会からの出品ができない旨の連絡を受けた。

そこで、町出身である故白石春樹元県知事から寄贈された、山本五十六をはじめとする名だたる大将達の遺墨や、夏目漱石の書簡などを約10年ぶりに展示することとした。



また、町内にアトリエ（創作拠点）を構えるなど、町に所縁がある作家さん（いわゆるプロの方々）の作品も無理を言ってお借りすることができた。

その他にも、この夏松前町文化財に指定された約300年前の町の景観が描かれた古地図や、出作遺跡の出土物などによる文化財コーナーの設置や、広報紙「広報まさき」の表紙を飾った笑顔の写真を多数展示した。



(2) 映画上映会

芸能発表が中止となり、ホールでの催物は映像作品上映会に変更した。午前中は親子連れが楽しめる作品、午後は大人向けに愛媛県（松山）に所縁のある作品を上映し、喜んでいただいた。



3 成果と課題

コロナ禍における文化祭開催に際して、感染防止策が徹底できるよう検討した結果、規模は縮小せざるを得なかったが、来場者からは「貴重な機会であった」と好評をいただいた。

しかし、文化祭への出品や出演を通して自分を高め、仲間との絆を深めてきた人々にとって、今年度は本当に我慢の年であった。来年度は、今年度の経験を踏まえ、感染防止策も講じながら、またいつもの文化祭が開催できることを願う。